

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 アイツバマイ ゆふ

主査 教授 荒戸 照世
審査担当者 副査 教授 玉腰 暁子
副査 教授 大滝 純司
副査 教授 寺沢 浩一

学位論文題名

ハウスダスト中フタル酸エステル類曝露によるアレルギー症状への影響
および住居特徴との関連

(Phthalates in house dust and their association with building characteristics and allergic symptoms)

フタル酸エステル類によるアレルギー症状との関連を明らかにするために、ハウスダスト中のフタル酸エステル濃度と住居の特徴およびアレルギー症状との関連を検討した結果、ポリ塩化ビニル床材は DEHP, DINP 濃度がそれ以外の床材と比較して有意に高かった。次にハウスダスト中のフタル酸エステル濃度と住人 516 名のアレルギー症状との関連を検討したところ、DINP とアレルギー性鼻炎、DEHP とアレルギー性結膜炎、DiBP および BBzP とアトピー性皮膚炎との関連を認め、これらの関連は 15 歳以上の大人より 15 歳未満の子どもでより強く、子どもは大人と比較してダスト中フタル酸エステル曝露に対し脆弱である可能性が示唆された。審査において、寺沢教授より揮発性のしやすさ、ダスト中の濃度の解釈として分子量は関与しないのか、大滝教授よりアジュバント効果について、ダスト量との関連、玉腰教授よりアレルギー症状へのメカニズム、申請者が果たした役割、荒戸教授より築年や地域とダスト濃度との関連について質問があった。申請者は、揮発性は低い徐徐に揮発すること、分子量も今後検討する必要があること、アレルゲンによるアレルギー反応を増強させること、ダスト量とは関連がなかったこと、アジュバント効果は認められているが未だ議論中であること、申請者の役割は主に研究計画立案から訪問調査、データ解析までを行ったこと、築年が古いとダスト中濃度が高いこと、地域差はなかったことを述べた。

この論文は、2 編の英文学術雑誌に既に掲載されており、ハウスダスト中のフタル酸エステル類による子どものアレルギー症状のデータを提示するものとして高く評価され、規制に関する政策提言に資することが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。